

なんケア通信

第18回 南部圏域の地域包括ケアを考える会(なんケアの会)を開催しました。

開催日時：平成30年12月7日(金) 18:00~19:15

会場：南部市民サービスセンター「なんぴあ」 2階 地域文化ホール

参加者：51名(一般参加2名、介護事業所関係者 21名、地域包括支援センター 2名、調剤薬局 1名、御野場病院職員 16名、他9名)

メインテーマ：地域包括ケアシステム実現を目指した地域で暮らせる街づくり



演 題

「いま、なぜ在宅医療か？」

秋田往診クリニック 理事長 市原 利晃 先生

平成30年12月7日(金)に「第18回なんケアの会」を開催致しました。今回は、年2回の公開講演の会でした。地域にお住いの方々をはじめ、さまざまな職種の皆様にご参加をいただき、誠にありがとうございました。当日は、あいにくの雪となり、また、ちょうど会場の隣にスーパーがオープンしたことも重なり、駐車場などご不便をおかけしてしまいました。次年度からは、皆様が足を運びやすい季節に公開講演会の開催できるよう、検討して参りたいと思います。

今回の講演会は、秋田往診クリニック理事長の市原利晃先生を講師としてお招きし、「いま、なぜ在宅医療か？」について、ご講演頂きました。市原先生は、平成19年に県初の在宅医療専門クリニック「秋田往診クリニック」を開業された、在宅医療のエキスパートです。秋田県の現状やご自身の診療を踏まえながら、地域の皆様にも大変わかりやすく講演してくださいました。

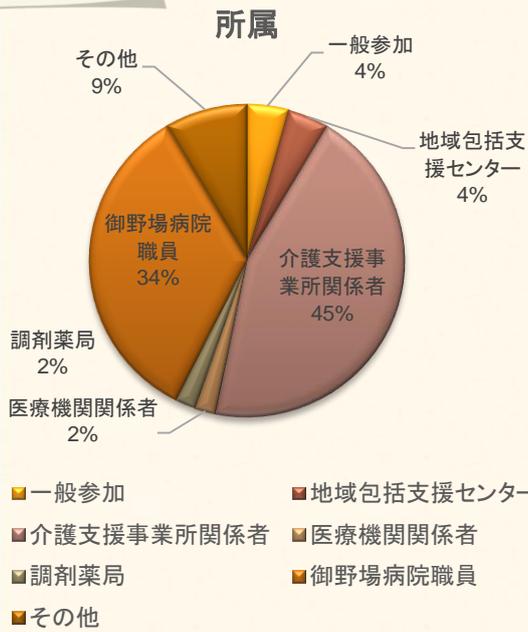
秋田県の高齢化は世界一であり、それに伴い、これからの医療・福祉等の問題は切実です。急性期病院は治療の場であり、早期退院に向けて治療が進められています。しかし、退院後の生活の場がしっかり整備されなければ、患者さんは安心して療養できません。市原先生は、「患者さんが望む場所で療養が行えるように体制を作る」ことが地域連携の目標であると述べられました。そして、これからの医療福祉は、急性期病院と慢性期病院、福祉施設、在宅医療の役割をいかに効率よく分担するかが重要課題であるとのことでした。私達は、地域の皆様が安心安全に暮らせるよう、それぞれの機能を有効活用し、円滑な連携を図りながらサポートしていかなければならないと感じました。

先生が訪問診療した患者さんの中には、末期癌を患いながらも「絶対に入院したくない」と最期まで一人暮らしを続け、ご自宅で看取った方もいらっしゃったそうです。病状や家庭環境などの問題により、在宅医療が難しいと思われる状態でも、工夫によって可能となる場合も多いとお聞きしました。会場の皆様からは、「自分のこと、自分の親の事として聞いていました。将来が明るく思えてきました。」とのご感想もいただきました。

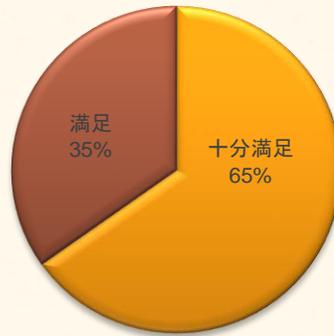
次回は、地域の多職種の皆様を対象に「在宅酸素療法について」を予定しております。



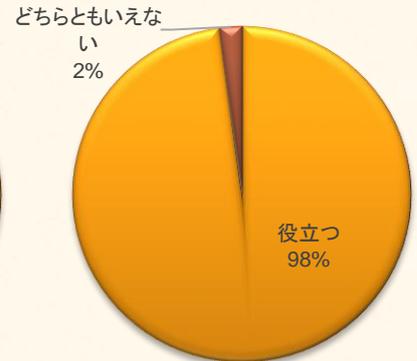
アンケートの集計結果



講演会に参加していかがでしたか？



この講演会はあなたにとって役立つものでしたか？



回収率：92.1% (アンケート配布：51名、回収：47名)

会場の様子



講師の市原先生



会場の様子

2018/12/07

皆様からのご意見・ご感想



生活を、その人の思いをきちんとみつめ、寄りそっていただける支援者でありたいと思いました。良いお話を聞き、刺激にもなりました。

地域包括支援センター

とてもわかりやすく、興味深い内容でした。

御野場病院職員



当院の理事長

自分のこと、自分の親のこととして聞いていました。将来が明るく思えてきました。

介護支援事業所関係者



質疑応答の様子

介護が身近に迫る中、とても参考になりました。家族や自分がどんな医療を受けたいか、確認し合いたいです。

調剤薬局

次回開催のお知らせ

開催日時：平成31年2月8日 18:00~19:15

会場：南部市民サービスセンター「なんぴあ」2階 地域文化ホール

